

2024年度  
第4回 理事会議事録

2024年 7月 9日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

# 2024年度 第4回理事会議事録

1. 日 時 2024年 7月 9日 (火) 14:00～16:30
2. 場 所 鉄鋼会館 802号室
3. 構 成 員 14名
4. 出席構成員 14名 (別紙 出席者名簿参照)
5. 議 事 次 第
  - (1) 開会の辞
  - (2) 定足数確認報告 (定款第36条)
  - (3) 会長挨拶
  - (4) 前回理事会議事録の確認
  - (5) 報告事項
    - 1) 委員会等の体制について
    - 2) 鉄建協との共同陳情について
    - 3) 工場認定条件 (品質管理体制) の保持状況確認について
    - 4) 鉄骨技術研究開発助成制度の募集について
    - 5) 支部の位置付け明確化 (規范文書共有化) について
    - 6) 3支部合同要望 (管理技術者ルビ、JSCA 対応) について
    - 7) 継続課題に関する情報共有化について
      - ①鉄骨製作図問題 ②物流2024年問題 ③特定技能外国人材対応
    - 8) その他
      - ①人づくり研修 ②賛助会員との懇談会 ③保有資格調査 ④事務局体制
  - (6) その他の定例報告事項
    - 1) 構成員登録状況
    - 2) 着工面積と推計鉄骨需要量
    - 3) 2024年度主要会議日程
    - 4) 支部報告
  - (7) 閉会の辞

## 6. 議事要旨

### (1) 開会の辞

進行役の小貫専務理事より開会する旨が告げられた。

### (2) 定足数確認報告

小貫専務理事より、本理事会は 14 名すべての理事が出席されており、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされていること、また、監事も 2 名全員に出席いただいていることが報告された。

### (3) 会長挨拶

永井会長より「今日は、新しいメンバーでの初めての理事会ということで、協会を取り囲む課題等についても、説明をさせていただく予定です。また、事業環境的には、やや不透明感が増している状況ではありますが、皆さんと一緒に団結して、乗り越えていきたいと思っておりますので、よろしくお祈りします。」との挨拶があった。

### (4) 前回理事会議事録の確認

小貫専務理事が、2024 年度第 2 回、第 3 回理事会の要点を読み上げ、確認、了承された。

### (5) 報告事項

#### 1) 委員会等の体制について

委員会等の新体制に関し、運営委員会及び技術委員会の委員については各支部長の推薦に基づき、議案書(p3)のとおり提示された。

委員長については、永井会長より次のとおり指名され、了承された。

○運営委員会 委員長： 妹尾理事〔中国支部長/岡山県〕

○技術委員会 委員長： 岩永理事〔九州支部長/長崎県〕

全構協の役職員が関係する各委員会の担当等について議案書(p4)に沿って説明され、了承された。

また、ワーキンググループ（WG）の設置（継続）について議案書(p5)に沿って以下の内容が説明され、了承された。

◇一次加工品質管理 WG（新規）：（\*昨年度から協議を継続していたテーマ）

リーダー= 岩永理事、メンバー= 学識者含め今後検討

◇人づくり研修 WG（継続）：

リーダー= 大竹副会長、サブリーダー= 竹原理事、稲垣理事

メンバー=従来 WG メンバーが継続

活動期間：9 月末まで

◇図面問題対応検討 WG（継続）：

リーダー= 秋山理事長（新潟）、メンバー=従来 WG メンバーが継続

活動期間：7 月末まで

委員会の運営と今後の予定について、以下の説明があった。

- ・常設の委員会については、副委員会を2人選んでいただくことになっているので、委員長には副委員長の推薦をお願いしたい。
- ・常設委員会の第1回開催については、事務局と調整の上、8月上旬頃までを目途に開催を検討していただきたい。可能であれば、そのタイミングで、会長より委嘱状をお渡しする段取りで進めることとする。
- ・委員会は理事会から諮問された事項を検討する組織であり、WGの設置を含め、理事会への報告と承認を前提に進める様お願いしたい。

また、今後理事会で取組むべき課題について、以下の説明と要請があった。

- ・常設委員会、WG等で取組むことになっている課題以外に、業界として抱えている課題はたくさんあり、その課題にどう取組むかについては、8月27日の理事会で協議することになっている。
- ・については、理事の皆様からも、取組むべき課題の提案をいただきたいとの要請が出された。

## 2) 鉄建協との共同陳情について

7月17日から予定されている鉄建協との共同陳情についてスケジュール、要望内容等について、議案書(p6)にそって説明され、確認された。特に、今年の陳情のポイントとして、足元各地域でも対応している鉄骨製作図問題について強調する方針であることが報告された。

## 3) 工場認定条件（品質管理体制）の保持状況確認について

「工場認定条件の保持状況確認調査」については、本年度も認定から丸2年経過した工場に対して、従来と同じ内容で実施する旨、議案書(p7-9)にそって説明され、了承された。

- ・確認内容は、
  - ① 品質管理体制変更の有無（及び変更有の場合の報告書提出状況）
  - ② 資格保有期限が確認出来る一覧表の作成状況
- ・確認方法と確認書提出ルート
  - ① 各県組合から対象工場に「保持状況確認書」の提出依頼を実施
  - ② 対象工場から提出された確認書を組合で一覧表として整理し全構協へ提出  
その後は、内容を確認の上、組合と連携しながら品質管理体制を維持すべく、適切な指導に繋げていく。

本日の理事会承認後、7月中旬までに各県組合に発信を行い、その後9月末までに各組合から全構協へ一覧表の提出を行っていただく予定。

#### 4) 鉄骨技術研究開発助成制度の募集について

鉄骨技術研究開発助成制度の募集について、議案書（p10）に沿って説明された。

- ・ 昨年も応募がなかったため、今年は募集期間を長めに確保することとし、8月から募集を開始し、12月一杯とすることとした。

#### 5) 支部の位置付け明確化（規范文書共有化）について

支部の位置付けの明確化に関して、議案書（p11-14）にそって、妹尾理事から、下記内容が説明された。

- ・ 「支部の位置付け」は、前期の運営委員会でまとめ規範的文書と位置付けたものであり、本日あらためて復習として説明をさせていただく。
  - ・ 支部の位置付けでは、「支部とは」、「支部の設置目的」、「支部長の責任と権限」等を整理している。
  - ・ 全構協理事会の内容については、極力早いタイミングで支部内へ伝達すること。
  - ・ やむを得ない事情で理事会を欠席する場合は、代理出席の対応を検討すること。尚、理事会への代理出席について、議案書（p15）の届出書式が、今週中に発信されることが報告された。
- また、全構協理事会内容の迅速な支部への伝達については、各支部の事情はあるものの、Web会議等の活用を含めご対応いただきたいとの要請があった。

#### 6) 3支部合同要望（管理技術者ルビ、JSCA対応）について

3支部合同要望書について、議案書（p16-18）にそって、岩永理事から内容が説明された。

＜JSCA等構造技術者との意見交換会の開催＞

各地域ではJSCA地区会等との意見交換は行われているが、「図面問題」等、大きな問題への対応については、十分に機能していない実態がある。今後の様々な技術的問題への取組みに向けて、全構協中心に産・学の意見交換会の開催を検討していただきたい。

上記3支部からの要望を踏まえ、永井会長より下記提案があり、了承された。

- ・ 産学含め、技術的な課題について協議することは非常に重要であり、その進め方については、きちんと検討する必要がある。については、WGを設置して検討を進めたいと考えており、リーダーは、登尾理事 四国支部長にお願いしたい。また、WGメンバーの選定に際しては、各支部からも相応しい方の推薦をお願いしたい。

＜「鉄骨製作管理技術者」の問題及び教本への漢字ルビ対応＞

- ・ 本課題については2021年に九州支部より要望し、鉄骨技術者教育センターから見合わせとの回答をえたが、環境の変化等もあり、今回あらためて3支部合同の要望として提出するもの。

- ・本要望の背景として、「事業を行っていく上で外国人人材への依存度が高まっていること」、「特定技能の対応を踏まえた必要資格となる可能性」等の環境の変化がある。その様な状況を考慮し、外国人人材に対して、より門戸を開き、選ばれる業界になるべきではないか。

本問題については、外国人材に関する環境にも変化があることから、あらためて、鉄骨技術者教育センターへ要望を出し、検討をお願いすることとした。

## 7) 継続課題に関する情報共有化について

### ①鉄骨製作図問題

4月の関係先への要望書提出に続き、下記第2弾の検討が行われていることが報告された。

- ・図面に関する決め事を相互に確認することが出来る様な見積り条件書の統一様式（ひな型）を検討中。
- ・下請法等に関する調査についての対応解説書（テキスト）を検討中。両資料について、弁護士事務所と協議中。その後、WGでの検討を踏まえ、8月の理事会で報告予定。  
問題を解決していくためには、各地域の構成員各社が実際に動くことが重要であるとの意見があった。

### ②物流 2024 年問題

物流問題に関する各種発信（ポスター、チラシ、条件書、新聞掲載）について、内容と対応スケジュールの報告があった。

### ③特定技能外国人材対応

特定技能外国人材対応について、理事会のメンバーも変わったことから、ここまでの経緯と対応進捗等について、議案書（p22-25）に沿って説明が行われた。

## 8) その他

### ①人づくり研修

「人づくり研修」について、議案書（p26-27）に沿って、研修概要、研修の構成、受講対象者、開催予定の説明が行われ、確認された。

### ②賛助会員との懇談会

9月24日に予定されている「賛助会員との懇談会」について、概要等が議案書（p28）にそって説明され、以下の内容が確認された。

- ・懇談会内の各地区の状況については、理事（支部長）の方に、ご報告をお願いします。
- ・賛助会員には様々な業種の方がいることから、懇談会に向けては、事前に意見を提出していただき、集約の上当日に臨む予定。  
(8月の理事会時に集約情報を提示予定)

### ③ 保有資格調査

事業を行っていく上で必要となる人材関係の情報の入手を目的として、各正会員の理事長、副理事長を対象として、役員交代時の2年毎に、保有資格等の調査を実施している。個人情報とし十分に注意して取り扱うこととし、永井会長と小貫専務理事の2人だけでハンドリングすることとする。明日以降、組合経由で協力依頼を発信予定。

### ④ 事務局体制

7月1日からの事務局の体制について、議案書(p29)にそって説明され確認された。

## (6) その他の定例報告事項

### 1) 構成員登録状況

本日現在の構成員数は、前回報告時(6月14日)より1社増加し、2,153社であること等が、議案書(p31-35)により報告された。

### 2) 着工面積と推計鉄骨需要量

2024年度の4月、5月の鉄骨推定所要量は、それぞれ対前年同期比97.1%・95.7%となった。

### 3) 2024年度主要会議日程

主要会議日程が、議案書(p37)により確認された。

### 4) 支部報告

#### [九州]

- ・環境的には足元厳しくなっているが、価格的には踏ん張っている状態。  
HグレードとM以下との格差が大きくなってきている。
- ・大きな計画もあり、先々は見えているが、今後に向けては不透明感が出てきており注意が必要。沖縄は厳しい状態継続。
- ・凶面問題については、地域を問わず関心が強く、各関係先とも解決に向けて積極的。

#### 〔四国〕

- ・物件、稼働率とも、大きな変化はなく、相変わらず低調、一進一退。仕事が薄い中で、助け合いながら何とかやっている状況。

#### 〔中国〕

- ・全般的に案件が少なく厳しい。山陰地方は比較的競合も少なく何とかやっているが、山陽は厳しい。
- ・鉄骨から木造等へのシフトも進んでいる。あらためてS造化推進の取組みが必要だと感じている。

#### 〔近畿〕

- ・手持ち工事量等に大きな変化はないが、見積り物件は全ての県で少ない傾向。
- ・稼働率は総じて低く、各社別に大きな差が出ている状況。

#### 〔中部〕

- ・案件は少ないが、背景としてゼネコン等の人手不足の影響も出ている模様。
- ・少ない案件を取り合っている様な状況。
- ・国交省の積算基準の材料ロス率について改訂に向けた取組みをお願いしたい。

#### 〔北陸〕

- ・大型案件の見積りは極端に少ない。
- ・鋼材の単価については若干見直しが進んだが、その他の副資材、電気代等のアップ分については転嫁も出来ず加工賃で吸収する状態が続いている。
- ・地震後の復興については、やっと解体が進んできたという状態で、まだまだ建てるという段階までは至っていない。仕事がまばらな状況の中で、当面は我慢の状況。

#### 〔関東〕

- ・物件は総じて少なく厳しい状況であるが、融通しながら何とか仕事を確保している状況。但し、先行きは不透明で、不安感が広がっている。

#### 〔東北〕

- ・全体的に弱含みであり、今年は厳しいと想定している。
- ・手持ち工事量、稼働率ともに、県によりバラツキが出ている。単価にも影響が出始めている。
- ・仕事の融通も進めており、協力しながら何とか踏ん張っていききたい。

## 〔北海道〕

- ・グレード、地域による格差が顕著になっている。先々の不透明感も強くなってきている。半導体工場の建設は進んでいるが、残念ながら北海道のファブ的にはあまり関わっていないという状況。
- ・新幹線も見通しを含め不透明感あるものの、先々の案件では明るい材料もあり、価格維持に努めながら何とか協調して頑張っていきたい。

## (7) 閉会の辞

以上をもって、報告事項等、予定された事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

## 出席者名簿

会 長	永 井	毅
副 会 長	大 竹	良 明
〃	板 垣	昌 之
専務理事	小 貫	武
理 事	竹 原	慎 雅
〃	三 浦	隆 宏
〃	安 達	次 雄
〃	前 田	正 美
〃	稲 垣	法 信
〃	佐 野	勝 也
〃	妹 尾	一 人
〃	登 尾	昌 弘
〃	岩 永	洋 尚
理 事(相談役)	米 森	昭 夫
監 事	村 上	眞 樹
〃	吉 岡	晋 吾

理事総数	14名	うち出席者	14名
監事総数	2名	うち出席者	2名